

Old Kyu News(平成31年3月)



すばらしい眺望を大広間から

3月に舟形若あゆ温泉の大広間がリニューアルしました。大広間の南面を全面ガラス張りにしたことで、素晴らしい眺望をより堪能できるようになりました。さらに開放的で明るくなり、これまで以上にゆったりくつろげるようになりました。この他、ロビーや食堂に冷暖房設備を整え、1年を通して快適にご利用いただけます。



バブルサッカーで白熱

3月2日、生涯学習センターでバブルサッカー交流会が行われました。これは山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会最上地区協議会の主催で行われたもので、最上地域の若者22名が参加しました。

バブルサッカーとはバンパーボールという大きな風船の中に入ってサッカーを行う競技で、互いにぶつかり合いながら、男女問わず楽しめる新しいスポーツです。みなさんバブルサッカーのユニークな動きを楽しみながら、交流を図っていました。

Old Kyu News(平成31年2月)



小国川のすばらしさを

2月26日、中央公民館で第3回最上小国川写真コンテストの表彰式が行われました。これは最上小国川清流未来振興機構が企画したもので、最上小国川の大切さの再認識や、未来に伝える機運の醸成を目的としています。

コンテストには県内外から30名の応募があり、91点の作品の中から9名9作品が表彰されました。優秀賞には磯谷多喜子さん(舟形第1)の作品も選ばれるなど、最上小国川の素晴らしさが表現された作品が多くありました。

Old Kyu News(平成31年2月)



楽しく健康元気に

2月24日、生涯学習センターで第22回舟形町ラージボール卓球大会が開催されました。この大会は、舟形町ラージボール卓球協会が、卓球の普及や健康増進、親睦を図ることを目的に毎年行っているものです。

当日は29名が参加。男女別のリーグ戦の後、クラス別の試合や男女混合のダブルスをも行われました。みなさん真剣勝負の中にも笑顔あふれる大会となりました。



インターン生を受け入れ

東北公益文科大学1年の治部直樹さん(紫山)が2月4日から5日間、舟形町役場にインターンシップに来ました。

財政の仕事に興味があった治部さんは、財政係の仕事を学んだほか、「おかえり！孫プロジェクト」の企画提案などの仕事を他の職員と一緒に行いました。この体験を通して治部さんは、「働く人の想いや考えを直接聞くことができ勉強になった。今後に活かしていきたい」と話してくれました。

Old Kyu News(平成31年1月)



水木団子飾りで五穀豊穡

1月11日、ほほえみ保育園で水木団子飾りが行われました。これは、五穀豊穡を祈る小正月の伝統行事を体験してもらおうと、舟形町老人クラブ連合会(会長伊藤和昭和)さんが毎年開催しているものです。

園児たちは、今年の願いや目標などを書いた飾りを、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に楽しく飾り付けました。その後、発表会でも踊ったダンスを披露するなど笑顔にあふれる1日となりました。

Old Kyu News(平成30年12月)



手作りしめ飾りで良い年を

12月18～26日、町内6会場で「シニア塾 しめ飾りづくり」が行われました。これはわら細工愛好会のみなさんの指導のもと、伝統文化の継承を目的として開催したものです。

しめ飾りは、正月に年神様を迎えるにあたり、厄除けなどの意味があるとされています。参加者は、わら編み、しめ縄づくりから飾り付けまでを一貫して制作。みなさんオリジナルのしめ飾りを熱心に作っていました。



子供たちに本格中華を

12月19日、日本一の給食食育事業の一環として給食レシピ研修会が舟形中学校で行われました。今回は、パレスグラウンデル総料理長の高橋正伸さんと同中国料理料理長の秋山文男さん指導のもと、酢豚やエビのマヨネーズ炒めなどの中国料理、舟形の食材を使ってアレンジした料理を作りました。

実際の給食で提供できるよう調理師のみなさんは、シェフに質問をしながら手ほどきを受けていました。給食でどんな料理が出てくるのか楽しみです。

Old Kyu News(平成30年11月)



まるごとシェフのメニュー

11月30日、日本一の給食食育推進事業「まるごと長澤シェフのメニュー」として、マッシュルームと秋鮭の炊き込みご飯、舟形地鶏の照り焼き、地鶏コラーゲンスープなど、舟形産の野菜や食材をふんだんに使った学校給食が提供されました。

また、メニューを指導した料理人の長澤正彦さん(堀内出身)が、目の前でかつらむき飾りを実演すると、繊細な包丁の技に中学生たちから驚きの声が上がっていました。



3Dプリンターの「縄文の女神」

11月26日、新庄神室産業高校の教諭と生徒3名が、3Dプリンターで作成した「縄文の女神」5体を町に寄贈しました。

これは、地域とつながることと学び続けることをモットーとする同校の生徒が、授業の一環として「地域のためにチャレンジしたい」と作成したものです。生徒のひとりには、「想像以上に時間がかかり大変だったが、良い経験になった」と話していました。寄贈された縄文の女神は町内の公共施設に展示されます。



長沢和紙で卒業証書を

11月24日、舟形小学校6年生が長沢和紙保存会「和楽」の指導の下、長沢和紙を制作。これは、卒業証書を自分たちの手で作ろうと学年行事で企画されたものです。

児童たちは、はじめての和紙漉きに悪戦苦闘しながらも自らの手で完成させていました。また、親子で体を動かしたり、タイムカプセルの手紙を書くなど、笑顔の絶えない1日となりました。



舟中2年生 大賞に輝く

11月17日、舟形中学校2年生が「郷土Yamagataふるさと探求コンテスト」で、最優秀賞「ふるさと探求大賞」を受賞しました。これは、地域の方々と交流しながら学び、ふるさとへの愛着と誇りを育むため、県教育委員会が一昨年から開催しているものです。

生徒たちは、トライワークでの農業体験を通じて、知った町の特産品や国宝「縄文の女神」、「堀内田植え踊り」等の舟形の資源を、修学旅行先の港区でPRした取り組みを発表。笑顔の受賞となりました。



鮭有効利用調査釣り

小国川鮭有効利用調査釣りが、10月20日から11月11日まで行われました。初日には県内外から約30名の釣り客が集まり、中には開始の合図とともに釣り上げる方も現れました。

小国川漁業協同組合(組合長 高橋光明さん)では、富田地内にある小国川(最上川合流点から上流800m地点で川幅いっぱいの”止め”を造り、「ウライ」と呼ばれる仕掛けで鮭を捕獲。捕まえた鮭から採卵・受精させ、来年の春に稚魚を放流する取り組みを行っています。)



公文大生が舟形を案内

10月14日、東北公益文科大学の学生9名が企画した、JR東日本の「駅からハイキング」が行われました。

当日は14名が参加。まずは小国川観光で八鍬則昭さん(舟形第3)の鮎の話を聞き、鮎料理を堪能したほか、(有)舟形マッシュルームや、若あゆ温泉、産直「まんさく」を順に巡り、最後は舟形駅で治部恵子さん(紫山)の漬物を食べるなど、舟形を楽しみました。企画した学生の一人、宮崎樹さん(紫山)は「舟形の良いところを改めて見つけることができました」と話してくれました。



保育力の向上のため

10月2日、羽陽学園短期大学との連携協定事業の一環で、ほほえみ保育園の保育職員を対象にした造形指導者研修会が行われました。

当日は、羽陽学園短期大学の准教授花田嘉雄氏を迎え、子供のお絵かきや制作活動における心構えについての講話のほか、コラージュという絵の技法を使ったあそびの実技指導も行われました。参加した職員は「早速、このあそびを子供たちと一緒にやっていきたい」と話していました。



土偶を作ってPRを

9月20日、舟形中学校で「舟形焼若あゆ薫風窯」の金寛美さんを講師に招き、2年生47名が「縄文の女神」や附づくりを行いました。

これは縄文時代や「縄文の女神」を学び、郷土愛を育むために行われたもので、生徒たちはそれぞれ上手に作ろうと試行錯誤しながら制作していました。完成した土偶や附は、11月に行われる修学旅行に持っていき、港区役所麻布地区総合支所にて展示、舟形町と「縄文の女神」のPRをしていく予定です。



町の産業・観光・自然を巡り考える

9月19日、舟形大人塾2018で、町の産業・観光・自然を巡るツアーを行いました。

この日は9名が参加。午前中は小国川漁業協同組合や舟形町土地改良区で鮎の飼育や三光堰について話を聞き、お昼は、舟形若あゆ温泉で商品や名物などについて意見交換会を行いました。また、午後からは長沢集学校と長尾地区の荒沢の滝、念仏の松を巡り、改めて舟形町の良さや魅力を考えるツアーとなりました。



「シゴトの魅力」の伝え方

9月18日、「おかえり！孫プロジェクト」の一環で、「『仕事の魅力』伝え方研修会」が中央公民館で行われました。これは、子供たちに最上地域にも良い仕事がある事を知ってもらえるよう、地域企業の若手社員が仕事の魅力の伝え方を考えることを目的に開催されたものです。

当日は、Idea partners代表山本一輝氏を講師に招き研修会が行われ、参加した最上管内の企業の職員14名と県・新庄市などの職員は、グループワークなどを通して活発に意見交換を行っていました。



絵本作家の話に夢中

9月17日、絵本作家のかわばたまことさんの読み聞かせ後援会が、中央公民館で開催されました。今年で14年目になるこの講演会は、教育委員会と読み聞かせ連絡協議会が行っています。

当日は、親子連れなど約100名が集まり、かわたばさんの人気絵本「鳥の島」などの読み聞かせを楽しみました。また、絵の構想段階から絵本が完成するまでのお話などもあり、子どもたちも夢中になって聞いていました。



西堀町内会発足50周年

8月14日、西堀町内会発足50周年を記念して、記念式典が行われました。式では、前町内会長の佐藤和夫さんとデンタル美光の土井万佐男さんに感謝状が手渡されたほか、幅神楽保存会による幅神楽も披露されました。

西堀地区は、国宝「縄文の女神」が出土した地でもあります。また、縄文神輿会やすずの会、縄文里の会など多くの団体が地域の維持、活性化のために活動し、世代を越えた人と人のつながりも図られています。



縄文文化のPRを

8月10日、東京都の東京国立博物館で、国宝に指定された縄文時代の土器や土偶が出土した全国5市町の首長が初めて集い、懇談会を行いました。同博物館で9月2日まで開催されている特別展「縄文—1万年の美の鼓動」に合わせて行われたもので、日本独自の文化とされる縄文文化の再評価や情報発信を、連携して行うことなどが確認されました。

なお、縄文国宝6点が一堂に展示されることも初めてのことです。



舟形の夏を体験

8月3～5日、東京都港区と舟形町が「商店街友好都市との交流に関する基本協定」に基づき行っている「麻布地区サマースクールin舟形町」が開催されました。

今年で4年目を迎えるこの交流。舟形町を訪れた50名は、縁結びの道のトレッキングの他、カヌーやボートでの川遊び、鮎のつかみ取りなど、都会ではできない体験で、舟形の夏を存分に楽しんでいました。

Old Kyu News(平成30年7月)



世田谷区の小学生と交流

7月21日～23日の3日間、夏季児童交流が行われ、舟形小学校43名と世田谷区立代沢小学校77名、同区立山崎小学校48名の5年生児童が交流しました。今年は猛暑が心配されたため、大型扇風機やクールバス(休憩所)が準備された中、ウォークラリーや鮎つかみ、川遊びをして楽しみました。3日目のお別れ集会では、一緒に花笠踊りをするなど、別れを惜しみながらも、舟形小児童が世田谷区を訪れる秋の交流での再会を約束していました。



中学生がいろんな職業を体験

7月6日、「おかえり！孫プロジェクト」の一環で、「ふなたがWAKU WAKU WORK」がB&G海洋センターで行われました。この事業は、中学生がこれから進路選択をしていく中で、より多くの選択肢から自分の進みたい将来を決めてもらえるよう、また最上地域にもたくさんの職業があることを知ってもらおうと、今年度から始まりました。

当日は、建設業、印刷業や旅館業など幅広い分野から14の企業と団体がブースを構え、中学1年生と3年生の90名が参加。仕事の内容の説明を聞き、実際の仕事を体験するなど積極的に活動していました。生徒は、「普段できない体験ができて、とても勉強になった」と話していました。

今後も町では、孫世代や若者に町や地域の魅力を伝えるとともに、舟形で暮らすということが選択肢の一つとなるように事業を展開していきます。

Old Kyu News(平成30年6月)



練習の成果を競う

6月24日、第59回舟形町消防団ポンプ操法大会がアユパークで行われ、20の部が出場しました。大会は、火災消火を想定した基本動作の速さと正確さを競うもので、各部の皆さんは日ごろの練習の成果を存分に発揮しました。

優勝は第6分団第12部(堀内)で、7月29日に行われる第40回最上支部操法大会に、町の代表として出場します。なお、個人賞は第6分団第12部3番員、伊藤将希さんでした。おめでとうございます。



日本一の給食で食育と郷土愛を

6月22日、「日本一の給食食育推進事業」として、舟形小学校で1年生の保護者35名が、子供たちと一緒に「めがみちゃん給食」を味わいました。この日はアスパラや笹巻きなど、舟形町産の食材をふんだんに使用したメニューが提供されました。子供たちは笹をむくのに手間取りながらも「んまい！」と笑顔で笹巻をほおばっていました。

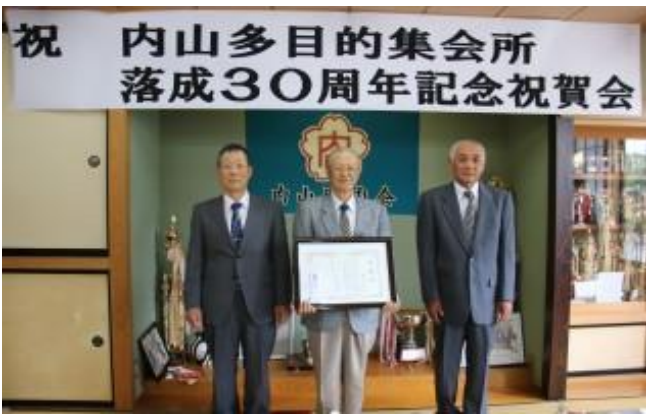
今年で2年目となるこの事業。今後も、給食を通じた食育や郷土愛の醸成を目指し取り組んでいきます。



魅力的なクルマたちが勢ぞろい

6月10日、第7回ヒストリック&ノスタルジックカーミーティングin舟形(実行委員長 伊藤 宏さん)がアユパークで開催されました。当日は、あこがれのクルマと愛車に愛情を注ぐオーナーたちに

一目会おうと、県内外から約15,000名の方が訪れ、クルマ好きの方だけでなく、みんなが楽しめる素敵なイベントとなりました。



内山多目的集会所30周年

6月10日、内山多目的集会所の落成30周年を記念して祝賀会が行われました。会では、集会所建設のため尽力された当時の町内会長の八鍬朝吉さんに、内山町内会から感謝状が手渡されました。

当時から「自分たちの力で地域をつくる」を目標に取り組んできた内山町内会。集まった町内会のみなさんは、当時を振り返りながら30周年を祝いました。これからも、いきいき水曜会や消防団などの地域活動の拠点としての役割を果たします。



人間ばん馬で一致団結

6月3日、アユパーク鞍馬大会会場(一の関地内)で、第3回舟形町人間ばん馬競技大会が行われ、町内外から11チームが出場しました。この大会は、地域全体を盛り上げることを目的に、もがみ南部商工会青年部が中心となり、毎年開催しています。

当日は気温30度を超える真夏日の中、各チームがそりを速く引く工夫を凝らしたり、仮装して出場するなど、力を合わせてがんばっていました。

Old Kyu News(平成30年6月)



昔ながらの田植え体験

6月2日、快晴のもと、長沢地区で田植え体験が行われました。これは、地域おこし協力隊の長江さんが企画したもので、地元農家のみなさんの協力をいただき行われました。

当日は、町内外からの参加者23名のほか、リングロー(株)の新入社員のみなさんも参加しました。参加者のほとんどが初めて田植えをするということで、熱心に植え方を聞きながら、にぎやかに作業をしていました。

Old Kyu News(平成30年5月)



大きくなって帰ってきてね

5月29日、舟形小学校2年生32名が、体長8cmほどに育った稚鮎約5,000匹を小国川に放流しました。これは、児童に鮎の生態や清流小国川をきれいにする事の大切さなどを知らせようと、小国川漁業協同組合(組合長高橋光明さん)が毎年行なっているものです。

児童たちは、小国川を泳いでいくたくさんの稚鮎に、「大きく育ってね」や「元気に舟形に帰ってきてね」などと声を掛けて放流していました。



元気に全力で競技

5月27日、晴天のもと、舟形小学校で第6回大運動会が行われました。「元気・やる気・笑顔 めざせ日本一の運動会」のテーマに、児童たちは元気に競技していました。

Old Kyu News(平成30年5月)



大きく育てね

5月15日、舟形ほほえみ保育園の年長組32名がじゃがいもの植えつけを行いました。子どもたちはじゃがいもの種芋を1つずつ植えながら、「おおきくなーれ」と声をかけていました。大きなじゃがいもがたくさん収穫できる時期が楽しみです。

Old Kyu News(平成30年4月)



挑～共に闘え頂を目指し～

4月29日、晴天のもと舟形中学校で春季大運動会が行われました。今年は、「挑～共に闘え頂を目指し～」をテーマに、青、赤両組とも勝利を目指し一致団結してがんばりました。

最後まであきらめずに全力を出しきった生徒たちに、大きな声援と拍手が送られていました。



交通ルールを

4月19日、ほほえみ保育園でかもしかクラブ発会式が行われ、舟形町交通安全母の会(会長 斎藤和子さん)より、今年入園した園児たちにかもしかクラブのバッジが贈られました。

かもしかクラブのリーダー八鍬和泉さんは、「道路の歩き方などを勉強し、交通事故にあわず元気にすごしましょう」と子どもたちに話していました。子どもたちは、道路の安全な歩き方や、命を守る大切さを一年間かけて学んでいきます。



開校一周年を迎えて

4月12日、長沢集学校(旧長沢小学校)で、長沢集学校開校1周年記念イベント「報道機関・住民向け長沢集学校IT化事業計画発表会」が行われました。

その中で、リングロー株式会社の碓敏之社長が1年間の活動報告と今後の事業展開を説明しました。日頃から長沢集学校を利用している町民の方からは「これからも子どもからお年寄りまで一緒に集まれる憩いの場として利用していきたいです」などの声が発表されました。



新たな公共交通がスタート

4月1日、舟形町観光物産センターめがみで、デマンド型乗合タクシー出発式が開催されました。町営バスに代わる新たな公共交通として、4月より地域の皆さんの足となるデマンド型乗合タクシーの交通安全を祈願し、門出をお祝いしました。